

第 1814 回（3 月 24 日）

移行経済諸国における
農業生産組織と土地問題

（北海道大学）山 村 理 人

欧州の旧社会主義国の農村では、現在、歴史的に見ても極めてユニークな構造が出来上がっている。特に農業生産組織および土地関係という 2 つの問題について、かつてない独特の構造が生まれている。農業生産組織についてのユニークな点は、多くの国で、様々な形のコーポレート・ファーマリング（大規模組織による農業経営）が生まれ、主要な農業生産形態として活動していることである。これはファミリー・ファーム中心の通常の資本主義諸国の状態とは全く異なるものであり、生産組織の研究のための一種の試験場のような様相を示している。そのうえ、これらの国では、土地所有と土地利用が完全に分離し、殆どすべての土地利用が全面的に賃貸借経営のもとに置かれるようになっている点も非常にユニークな状況であるといつてよい。

本報告は、こうした独特の現象を根拠づけている諸要因を分析し、生産組織や土地関係の効率性などを検討・評価し、様々な形態や関係の将来の変化の方向や「生存能力」についての展望を与える目的とする。内容は以下

の項目の通りである。

1. 移行経済諸国における農業構造改革
 - 1.1 「非集団化度」による比較
 - 1.2 改革の政策的差異を規定した要因
2. 土地関係の考察：所有権の再配分と効率性
 - 2.1 土地所有権の返還と私有化の意味
 - 2.2 東欧での農地再配分：特徴と問題点
 - 2.3 再配分後の土地関係の効率性
 - 所有権の強さと明確性
 - 所有権の配分の重要性（「コースの定理」の未成立）
 - 土地所有の細分化・分散化による取引費用の増大
 - 大規模借地農業の効率性
3. 生産組織
 - 3.1 移行期における農業生産組織の多様性
 - 3.2 移行経済における Corporate Farming の存続とその要因
 - 3.3 社会主義農場の継承法人の性格・特徴
 - 3.4 Corporate Farming と Family Farming
 - 取引費用による生産組織の比較分析規模の経済
 - Sustainability の比較
 - Corporate Farming と「外部性」の問題